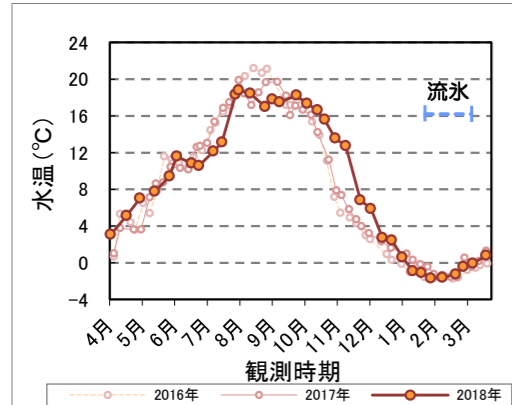


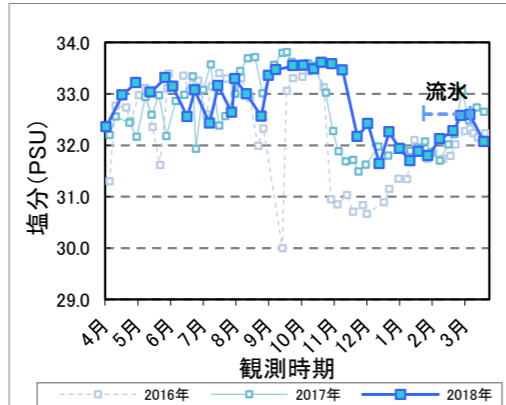
◎オホーツクタワーの動物プランクトン分析速報 (2019年3月)

海洋環境データ

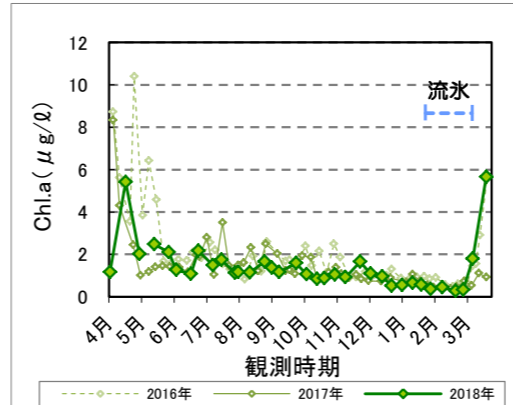
◎水温 (0~9mまでの平均値)



◎塩分 (0~9mまでの平均値)



◎Chl. a (0~9mまでの平均値)

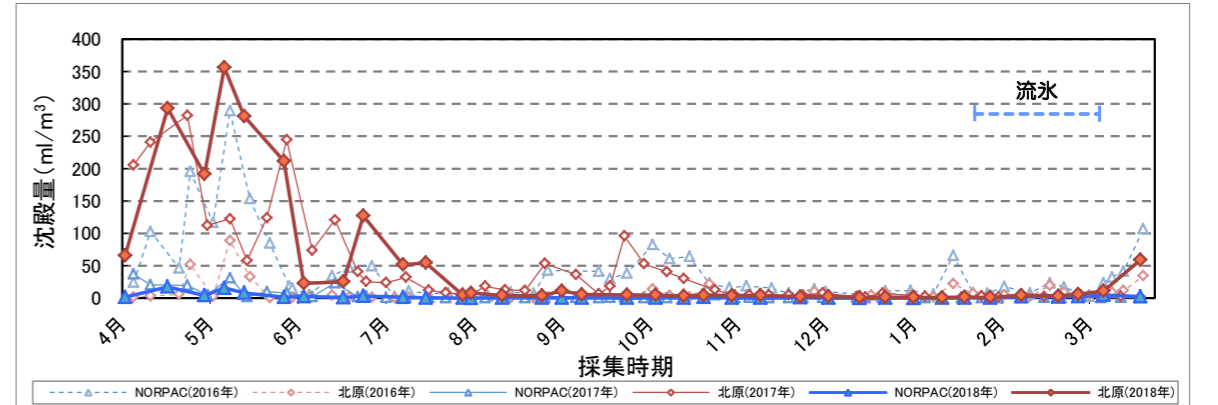


※観測：紋別市

動物プランクトンデータ

※分析：(株)エコニクス

◎動物プランクトン・沈殿量



※2019年 1月26日：流水初日、2月12日：接岸初日、3月5日：流水終日 発表
※流水期間：「流水初日」～「流水終日」の期間を表示

※2019年 1月26日：流水初日、2月12日：接岸初日、3月5日：流水終日 発表
※流水期間：「流水初日」～「流水終日」の期間を表示

※2019年 1月26日：流水初日、2月12日：接岸初日、3月5日：流水終日 発表
※流水期間：「流水初日」～「流水終日」の期間を表示

※2019年 1月26日：流水初日、2月12日：接岸初日、3月5日：流水終日 発表
※流水期間：「流水初日」～「流水終日」の期間を表示

概要

	3月4日	3月13日	3月26日
平均水温 (°C)	-0.4	-0.1	0.8
平均塩分 (PSU)	32.6	32.6	32.1
平均Chl.a (µg/L)	0.3	1.8	5.6
沈殿量 (ml/m³)	(NORPACネット) 2.6 (北原式定量ネット) 6.1	(NORPACネット) 4.6 (北原式定量ネット) 10.9	(NORPACネット) 2.6 (北原式定量ネット) 59.0
主な出現種	(NORPACネット) ○ <i>Calanus glacialis</i> [+] ○ <i>Pseudocalanus minutus</i> [+] ◎ <i>Pseudocalanus newmani</i> [++++] ○ <i>Eurytemora herdmanni</i> [+] (北原式定量ネット) ○ <i>Calanus glacialis</i> [+] ○ <i>Pseudocalanus minutus</i> [+] ◎ <i>Pseudocalanus newmani</i> [++++] ○ <i>Eurytemora herdmanni</i> [+] ○ <i>Acartia longiremis</i> [+]	(NORPACネット) ◎ <i>Pseudocalanus newmani</i> [++++] ◎ <i>Eurytemora herdmanni</i> [++++] (北原式定量ネット) ◎ <i>Pseudocalanus newmani</i> [++++] ◎ <i>Eurytemora herdmanni</i> [++++] ○ <i>Acartia longiremis</i> [+]	(NORPACネット) ○ <i>Neocalanus flemingeri</i> [+] ○ <i>Mesocalanus tenuicornis</i> [+] ○ <i>Eucalanus bungii</i> [+] ◎ <i>Pseudocalanus newmani</i> [++++] ◎ <i>Eurytemora herdmanni</i> [++++] (北原式定量ネット) ○ <i>Neocalanus flemingeri</i> [+] ◎ <i>Pseudocalanus newmani</i> [++++] ◎ <i>Eurytemora herdmanni</i> [++++] ◎ <i>Oithona similis</i> [+++] ◎ <i>Copepoda</i> (nauplius) [+++]
備考	(NORPACネット) - (北原式定量ネット) -	(NORPACネット) - (北原式定量ネット) 珪藻多い	(NORPACネット) 珪藻多い (北原式定量ネット) 珪藻極めて多い

出現量の多かった種類



●*Pseudocalanus newmani* (カイアシ類の1種: 幼体・幼虫・成体)
●*Oithona similis* (カイアシ類の1種: 幼体・幼虫)
●*Eurytemora herdmanni* (カイアシ類の1種: 幼体・幼虫)
●*Copepoda* (nauplius) (カイアシ類のノープリウス幼生)

※海洋環境データ欄の水温、塩分、Chl.aのグラフは、水深0~9mまでの平均値をプロットしたものである。平均水温、平均塩分、平均Chl.a欄の数値は、表示の都合上、水深0~9mまでの平均値を小数第2位で四捨五入した値で示し、グラフ上の表示と異なる場合がある。
※種名の先頭に“◎”がつく種類は、出現量の多い種類を示す。[]内の“+”は分析者の経験から、サンプル中の個体数の多寡が後述の程度であると判断し、区分したグループである(+)出現、[+]や多い、[+]多い、[+]かなり多い、[+]極めて多い)。
※種名の後ろの記号は、分析者の経験から北海道における出現傾向に後述の特徴があると判断し、区分したグループである(◆冷水性種、◆暖水性種、◆汽水性種)。
※今月のサンプルには珪藻類(植物プランクトンの仲間)が多く含まれており、沈殿量の数値はこれを含む。
※沈殿量欄の“0.0”表示は四捨五入の都合上、“0.1 (ml/m³)”未滿になったことを示す。
※参考文献：
①千原・村野(1997)日本産海洋プランクトン検索図説[東海大学出版会]②山路(1966)日本海洋プランクトン図鑑[保育社]③岩国市立微生物館 監修(2011)日本の海産プランクトン図鑑[共立出版]
④Wilson, M. S. (1966) North American Harpacticoid copepods. 8: The *Danielssenia sibirica* group, with description of *D. stefanssoni* Willey from Alaska. *Pac. Sci.* **20** (4), 435-444.
⑤Pinchuk, A. I. & Hopcroft, R. R. (2006) Egg production and early development of *Thysanoessa inermis* and *Euphausia pacifica* (Crustacea: Euphausiacea) in the northern Gulf of Alaska. *J. Exp. Mar. Biol. Ecol.* **332**, 206-215.
⑥林(2006)水産無脊椎動物学入門[恒里社厚生館]⑦Ohtsuka, S., H. Itoh & T. Mizushima (2005) A new species of the calanoid copepod genus *Centropages* (Crustacea) collected from Shimizu Port, middle Japan: Introduced or not? *Plankton Biol. Ecol.* **52** (2), 92-99.
⑧西・加藤(2002)日本産カムカイロ科多毛類の分類について. *タクサ*. **13**, 5-17.⑨今島(1996)環形動物 多毛類[生物研究社]⑩日本プランクトン学会 監修(2011) ずかん プランクトン[技術評論社]⑪水島・鳥澤 監修(2003) 漁業生物図鑑 新 北のさかたな[北海道新聞社]
⑫古賀(1960) *Centropages abdominalis* SATOのノープリウス幼生. *日本水産学会誌* **26** (9), 877-881.⑬伊藤・水島・久保田(2005) 駿河湾三保沖におけるカラヌス目カイアシ類の季節的消長. *東海大学紀要海洋学部*. **3** (1), 19-35.
⑭大越・野村(1990) 穿孔性多毛類 *Polydora* 属による北海道地方、東北地方沿岸のホタテ貝浸食状況. *日本水産学会誌* **56** (10), 1593-1598.